

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 2 年目)

## 1. 研究課題

(和文) 人文情報学の基礎研究

(英文) Fundamental Topics in Digital Humanities

## 2. 研究代表者氏名

ウィッテルン, クリスティアン

## 3. 研究期間

2013 年 04 月 - 2016 年 03 月 (2 年度目)

## 4. 研究目的

人文情報学（欧米では最近 **Digital Humanities** だ）というのは、ここで特に人文科学諸分野に於ける文献学を基礎分野として、成立中の新しい研究領域とする。対象となるのは人文科学に於けるデジタル資料のあり方、その資料に対しての方法論や研究手段等々。本共同研究班では特にデジタル・テキストの規格、取り扱い方、処理、研究方法などについての基礎的な研究を行う予定である。この数十年以来、多くの漢籍や古典はデジタル化されていることによって、東方学や中国に関するすべての研究が大きく変わった。研究者が現在直面している問題はもはや資料の乏しい状況よりは、大量のデータのなかに精密と正確に今の課題に必要なとする情報を絞っていけるか、さらに、長期的に使える研究の記録、研究者コミュニティでの共有、などはどう行うか。本共同研究班は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東方学の研究、つまり古典の校正、解読、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。そのツールの具体的な機能等は班員の関心や研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では文字としてのテキストと画像テキストの連携、複数のバージョンの扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や実例の検討、テキストマイニング、テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で 21 世紀の人文科学研究の基盤を強化することは本研究の最大の目的だ。

## 5. 本年度の研究実施状況

本共同研究班(2013.4-2016.3)は文献研究が行う人文科学の諸分野、特に東方学 の研究、つまり古典の校正、解読、注釈、翻訳等を支援する方法や規格を提唱 して、さらにそれに基づいた研究支援ツール見本の実装を目指している。その ツールの具体的な機能等は研究進行と共に明らかになるだろうが、現時点では 文字としてのテキストと画像テキストの連

携、複数のバージョンの扱い、テキスト批判、引用文や逸文の検出、語彙や実例の検討、テキストマイニング、テーマ・ジャンルなどでの絞り検索などが考えられる。研究者の需要を再検討して、テキスト研究に必要な道具で21世紀の人文科学研究の基盤を強化することは本研究の最大の目的だ。具体的な推進方針として、定期的な例会で研究課題についての議論を進めて、年に一、二回程度拡張研究会或は公開講演会という形で研究者コミュニティーと情報交換を行う。2014年度に第二と第四火曜日開催の例会以外に9月27日に拡張研究会が開催した、その時に研究班の班員以外の方も参加して頂いて、ご意見を頂きました。2014年に前年度に引き継いでテキスト研究・編集ツール「マンドク」の開発と同時に、テキスト・データベースの編集や検索用ウェブサイトの作成も行いました。

#### 8. 共同研究会に関連した公表実績

Wittern, Christian: 「Kanripo and Mandoku: Tools for Distributed Repositories of Premodern Chinese Texts」, Digital Humanities 2014 (2014年7月)、pp.408-409.

#### 10. 共同利用・共同研究の参加状況

| 区分            | 機関数 | 参加人数 |     |      |       |     | 延べ人数 |     |      |       |     |
|---------------|-----|------|-----|------|-------|-----|------|-----|------|-------|-----|
|               |     | 総計   | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 | 女性数 | 総計   | 外国人 | 大学院生 | 若手研究者 | 女性数 |
| 所内            | 1   | 5    | 3   |      |       | 1   |      |     |      |       |     |
| 学内(法人内)       | 1   | 2    |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 国立大学          | 1   | 2    |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 公立大学          | 1   | 1    |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 私立大学          | 1   | 2    |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 大学共同利用機関法人    |     |      |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 独立行政法人等公的研究機関 |     |      |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 民間機関          |     |      |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 外国機関          |     |      |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| その他           |     |      |     |      |       |     |      |     |      |       |     |
| 計             | 5   | 12   | 3   | 0    | 0     | 1   | 0    | 0   | 0    | 0     | 0   |

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

|                |       |
|----------------|-------|
| 総論文数           | 6 (4) |
| 国際学術誌に掲載された論文数 | 0 (0) |

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

|                |   |
|----------------|---|
| 役割             |   |
| 総論文数           | 0 |
| 国際学術誌に掲載された論文数 | 0 |

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

| 掲載雑誌 | 掲載論文数 | 主なもの |      |
|------|-------|------|------|
|      |       | 論文名  | 発表者名 |

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

| 理由   |       |      |      |
|------|-------|------|------|
| 掲載雑誌 | 掲載論文数 | 主なもの |      |
|      |       | 論文名  | 発表者名 |

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す